2026 年 3 月　北大交流　報告書

2026 年 3 月 30 日

勝又市蔵　作成

1. 要旨

2026 年 3 月 8 日から 10 日までの 3 日間、ヘルベチアヒュッテで北大山岳部と京大山岳部の現役部員同士の交流会を行った。

2. 日程

3 月 8 日	春香山小屋駐車場集合、股下山
3 月 9 日	白井岳
3 月 10 日	樺山、春香山小屋駐車場解散

3. 詳細

3 月 7 日

京大山岳部からの参加者は交流前日の 7 日に札幌に集合し、北海道滞在中に使わせていただけることになった佐藤の実家の車でピックアップ。交流会のための買い出しをしてから夕食を済ませ、車中泊組と快活組に分かれて一夜を明かす。

3 月 8 日

集合は春香山小屋駐車場に 10 時。ヘルベチアヒュッテは、駐車場から除雪された道路沿いを進み、道路わきに少し入ったところにあり、駐車場からは徒歩 5 分。冬の笹ヶ峰ヒュッテは入山に 4 時間を要するので、アクセスの良さではヘルベチアヒュッテに軍配が上がる。

ヒュッテ近くの道路脇まで車で荷物を運び、ヒュッテで互いのメンバーの自己紹介と日の確認をした。北大からの参加者は 4 回生 2 人と現ルームリーダーの 3 回生が 1 人。3 人のうち 4 回生の 1 人と 3 回生のルームリーダーは勝又と同じ静岡高校山岳部出身であった。7 日の夜から 8 日の朝にかけて降った雪による雪崩のリスクについて話した後、お昼過ぎにヘルベチアヒュッテを出発し股下山へと向かう。風が若干強くて視界も悪かったため、登れるところまで登り 2 つのスロープを滑走。登り返そうかというところで池崎のシールの粘着力がなくなり使い物にならなくなっていたので、池崎と佐藤はシールを買いに先に下山。残りの 2 人は北大のメンバーと一緒に登り返しをしてスロープを 1 本滑って下山。

夕食はサッポロクラシックを片手に、北大のメンバーが用意してくれた石狩鍋とジンギスカンを味わう。

お互いの活動の内容やスタイルなどについて話すことができ、有意義であった。ただ、酔った勢いなのか口が止まらなくなってしまった吉川が上回生の手に負えず、見苦しい姿を見せてしまった。

3 月 9 日

6 時に起床し、前日の夜の石狩鍋の余りに、これまた前日の余りのゴボウを加えたうどんを食べた。当初は 8 時出発の予定で春香山と樺山に行く予定であったが、天気が良いことから目的地を白井岳に変更。

ヒュッテ出発が遅くなったので 2000 円を支払い、ゴンドラを使うことになった。ゲレンデ外に出て朝里岳を登り、見渡す限りの雪原が広がる飛行場を歩く。

ゴンドラを降りた直後はかなり視界が良かったのだが、次第に周囲の山々はガスに覆われてきた。飛行場から白井岳方面へはシールを貼ったまま滑走しようとしたが、クラストしていて滑りにくいことからシールを外して滑った。その後シールの張り替えを 2 回行い白井岳山頂に到着。

道中はガスっていたが、山頂の南側だけガスが取れ、日がさしていた。雪崩のリスクが大きいことから、山頂直下ではなく、1190 とのコルから直下の崖を避けるように滑り降りる。このコル直下の斜面の雪は本州では味わったことがないほどフワフワで、京大山岳部一行は非常に満足していたが、北大のメンバー曰く北海道にはまだ上があるそう。その後のルーファイは地形が複雑なため難しく、1 回だけ沢底に降りてから登り返した。この登りで佐藤が板を流してヒヤッとしたが、後続の池崎がキャッチしてことなきを得た。そこからすぐに場外滑走をする人たちのシュプールに合流してゲレンデに到着。場外滑走者を何人か見かけたが、ザックも背負わずかなり身軽な様子だった。

下山後は小樽側へ追加の買い出しをしに行った。夕食は京大側で用意したスキムミルクとレタスのパスタ。京大ではアルファ米やパスタを使うことが多いのだが、1 日目の夕食では北大のメンバーがご飯を鍋で炊いてくれていた。

3 月 10 日

翌日は好天が見込まれ、旭岳を取る絶好の機会であるため、移動時間などを確保するべく 7 時起床で樺山に行くことに。朝食は京大側で用意したお汁粉。帰りにヒュッテを閉めに戻るのは面倒なので、先にヒュッテの片付けを終えてから出発する。

結局、春香山小屋の駐車場を出発したのは 10 時半で、沢沿いを進む。道中スノーシューを履いた 2 人パーティが反対側から歩いてきた。無事渡渉地点のスノーブリッジを見つけ、樺山方面へ向かう。池崎はトレース外の窪地に落ちて転ぶなどシール歩行に安定感がなく若干不安だったが、何事もなく通過。佐藤と吉川などが中心にラッセルをしつつ高度を上げて行ったが、750 の小ピークの後、樺山から北西に伸びる尾根ではなく、小ピークから南東に伸びる尾根に入ってしまい、引き返した。小ピークを越えた後に登った尾根は、細い上に急で立木も多いため、下りは少し苦労するだろうなと思いながらその上の緩やかな地点に出る。少し登った後で東へと進路を変え、山頂に。

樺山からは登り返しをすることのないようトラバース気味に緩い斜面へと降りる。雪はパウダーで、京大基準では申し分なかった。その下の急な細尾根は横滑りなどを多用して降り、小ピークへと登り返した後、再び緩斜面を滑走。吉川は物怖じせずターンを繰り出していた。その後の渡渉は、いかに沢へと降りるスピードを殺さずに登り返せるかが肝であったが、滑走が不安定だった池崎もとりあえず無事通過。その後は駐車場まで一直線と行きたかったのだが、緩い登りが何箇所かありスムーズではなかった。北大の人曰く普段はノンストップで行けるようだ。14 時に駐車場に到着し、北大のメンバーと別れた。

北大側からは、他の山行との兼ね合いなどもあり、3 回生と 4 回生が交流会に来ていたようだが、解散後に札幌で北大山岳部の 1 回生 2 人と夕食に行くことができた。互いの山岳部の 1 回生同士でかなり会話が弾んでおり、今後の交流が続けば何より。

3 月 11 日〜3 月 17 日

北大との交流を終えた翌日の 11 日は旭岳へ行った。予想通り天気が良く、登りは雲一つなかったが、帰りはガスに覆われた。

12 日は富良野岳ジャイアント尾根に行き、13 日は三段山。両日ともガスに覆われていたが、富良野岳は雪の質が良く気持ちよかった。ヘルベチアヒュッテでの交流の際に行きつけのお店を教えてもらい、12 日は富良野の小玉家に行き、白銀荘に泊まった。13 日は岩見沢の未来亭。どの店もおいしくて大満足。14 日は札幌に戻って北大山岳館を訪問。

15 日はコタレさんと積丹を登り、16 日は羊蹄に行き 17 日に解散。